

日本学術会議
フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第 25 期・第 6 回）
議事要旨

日時： 令和 4 年 4 月 20 日（水）15：00～17：10

会場： オンライン会議（Zoom）

出席：（分科会委員）春日文子、窪川かおる、鈴木康弘、日置光久、氷見山幸夫、福士謙介、
山口しのぶ、小林亮、丹羽淑博
（オブザーバー）

ESD/SDGs カリキュラム小委員会委員： 鈴木克徳、島田智、棚橋乾、安田昌則

海の学びカリキュラム小委員会委員：川真田早苗、嵩倉美帆

（事務局）小山亮

資料：

資料 1：第 5 回議事要旨

資料 2：学術フォーラム企画案

議題

1) 6 月 5 日開催の学術フォーラムの内容について

2) 学術フォーラムの準備、実施方法、実施体制等について

（二つの議題を同時に論議した）

- 後援名義申請に関して、その資料として資金計画が必要な場合がある。学術会議事務局が確認して申請を担当する各委員に連絡をすることとなった。
- 春日委員より FE Japan Hub はすでに後援の承認がされ、FE 日本委員会に関しては福士委員が後援申請をすることとなった。
- 山口委員はディスカッションの司会であるが、学術フォーラム当日海外出張をすることとなったため共同司会者の嵩倉先生が適宜総合司会等からの支援を受け、行うこととなった。
- 当日は 12 時～13 時に分科会を開催し、終了次第学術フォーラム会場に移ることとなった。
- ポスターに記載する「場所」に関して、「日本学術会議講堂（オンラインによる参加あり）」という記載が有力だが、開催方式を事務局で確認して正確な記載を行うこととする。
- QR コードに関しては事務局で確認し、必要に応じポスターに記載するようにする。

- ポスターに中学生以上と記載があるが、小学生の参加も認めるかという論議があり、小学生の参加も問題ないことが確認された。また、中学生・小学生の参加を促す形の表現とした方がよいという意見があった。
- 講堂で参加する場合は参加人数の上限があるか質問があり、上限は約 100 名で、入りきらない参加者は別室から参加するとの説明が事務局からあった。
- 会場参加者からの質問は事前配布の質問票で受け付ける事とする。また、オンライン参加者からの質問はチャットボックスで受け、それを事務局で印刷しディスカッション司会者（嵩倉先生）に手渡すこととなった。
- 会議運営業者との打ち合わせが必要だと思われるという意見があり、打ち合わせは司会者（福士（代）・窪川・山口・嵩倉）が事務局と相談し、できるだけ早い時期に行うこととなった。Zoom webinar は 5 月 30 日～6 月 5 日予約済み。
- 発表者は会場に来る必要があるか質問があり、論議の結果、発表者は基本的には会場で発表することとなった。その際の旅費の支弁に関しては規定上は支弁できるが、予算の内容を確認し、事務局が委員へ連絡することとなった。オンラインでの発表は可能だが、周知な打ち合わせが欠かせない。あらかじめ動画を用意しておくのが望ましい。
- パネルディスカッションにおけるパネリストは壇上に整列することとする。学術会議のコロナのポリシー（1メートル間隔）を満たしていることを確認した。
- ポスターに関してデザインは委員長が担当、電子版を作成し、学術会議の HP に掲載する。学術会議玄関に貼り出すポスターは A3 の用紙に事務局でプリントアウトする。
- 会議のアウトプットはどのようなものにするか論議があり、1)「学術の動向」における特集、2) FE 本部のウェブサイト（英語）への掲載、3) FE 日本委員会のメーリングリストでの公表等を行うこととなった。
- 学術フォーラムの録画を YouTube 等で後日配信可能であるかの確認を行う。また、著作権に関する問題が起こらないように各担当委員は注意することとなった。

3) 分科会に関係する国際的・国内的動向

- 春日委員より、FE 国際に関する状況が資料をもとに説明された。ウクライナの件に関する FE のマネジメント、研究コミュニティの影響や対応が説明された。

4) その他

特になし

以上